

8月の中小企業月次景況調査

〔令和2年8月末現在〕



全国中小企業団体中央会
National Federation of Small Business Associations

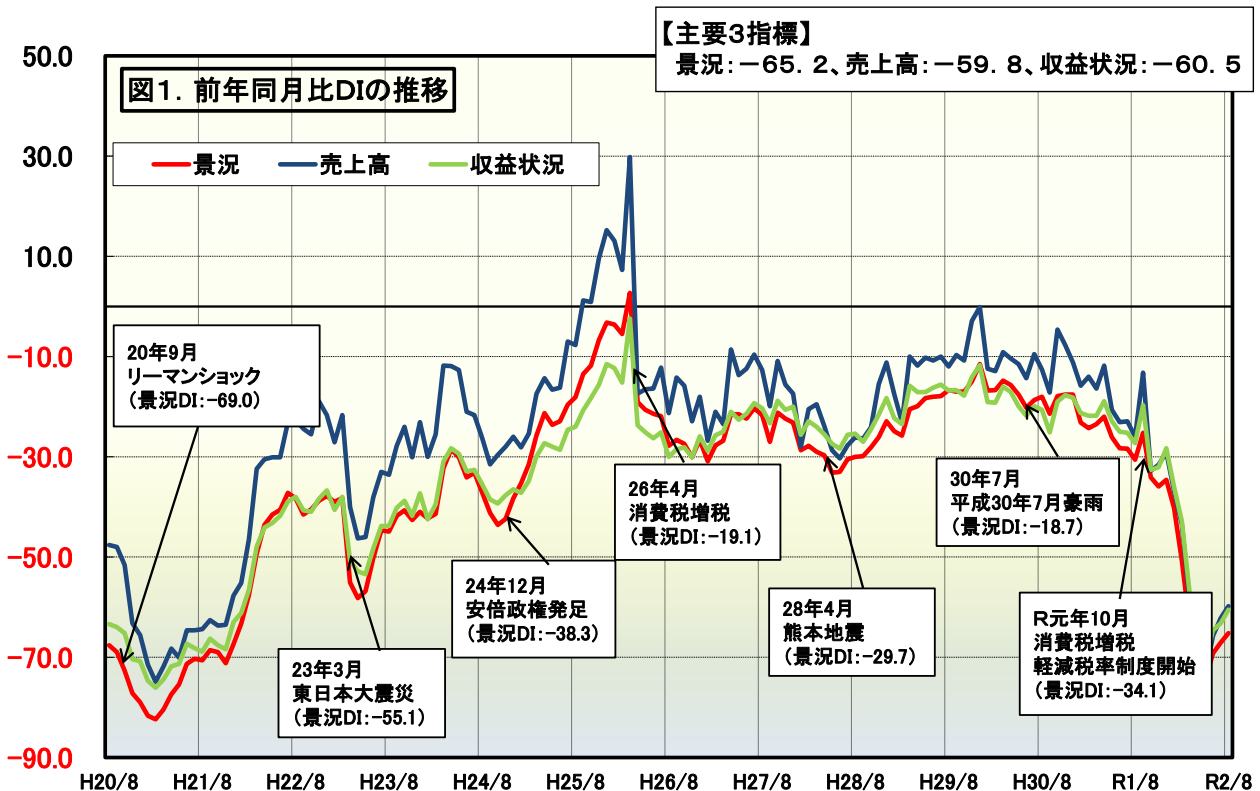
令和2年9月25日発表

◎8月のDIは全9指標中、8指標が前月より改善。

○新型コロナウイルスの発生により、DIは大きく悪化していたが、緊急事態宣言の解除以降、経済活動の再開により、6月以降、上向き傾向が見られる。

○ただし、DI水準は引き続き大きく落ち込んでおり、足元の感染者数が高止まりしている状況下では、正常な経済活動に戻るには時間を要するとの懸念も強い。

○業種を問わず、新型コロナウイルスの影響が長引くにつれ、人員削減や給料カットを検討する企業も増えてきており、先行きを不安視している声も多くなってきている。



※DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、好転 (増加・上昇) したとする割合から、悪化 (減少・低下) したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合 (協同組合、商工組合等) の役職員約2,600名に委嘱〕による調査結果です。
調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な景況 (前年同月比) です。

(本発表資料のお問い合わせ先)
全国中小企業団体中央会
担当：政策推進部
TEL 03-3523-4902
<https://www.chuokai.or.jp>

8月の調査結果のD I 概況

【指標D Iの動向とポイント】

1. 8月のD Iは、全9指標中、8指標が前月より改善。主要3指標は、景況1.9ポイント、売上高2.4ポイント、収益状況2.7ポイント、いずれも上向いた。
2. 各D Iは、概ね3月の新型コロナウイルス発生直後の水準まで戻す結果となった。主要3指標以外では取引条件D Iや資金繰りD Iは上向いている。一方で設備操業度や雇用人員は横ばい推移、在庫数量は悪化している。
3. 新型コロナウイルスの拡がりは収束が見えていないため、先行きへの対応の不安や見通しがつかないというコメントが多く寄せられている。

全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）

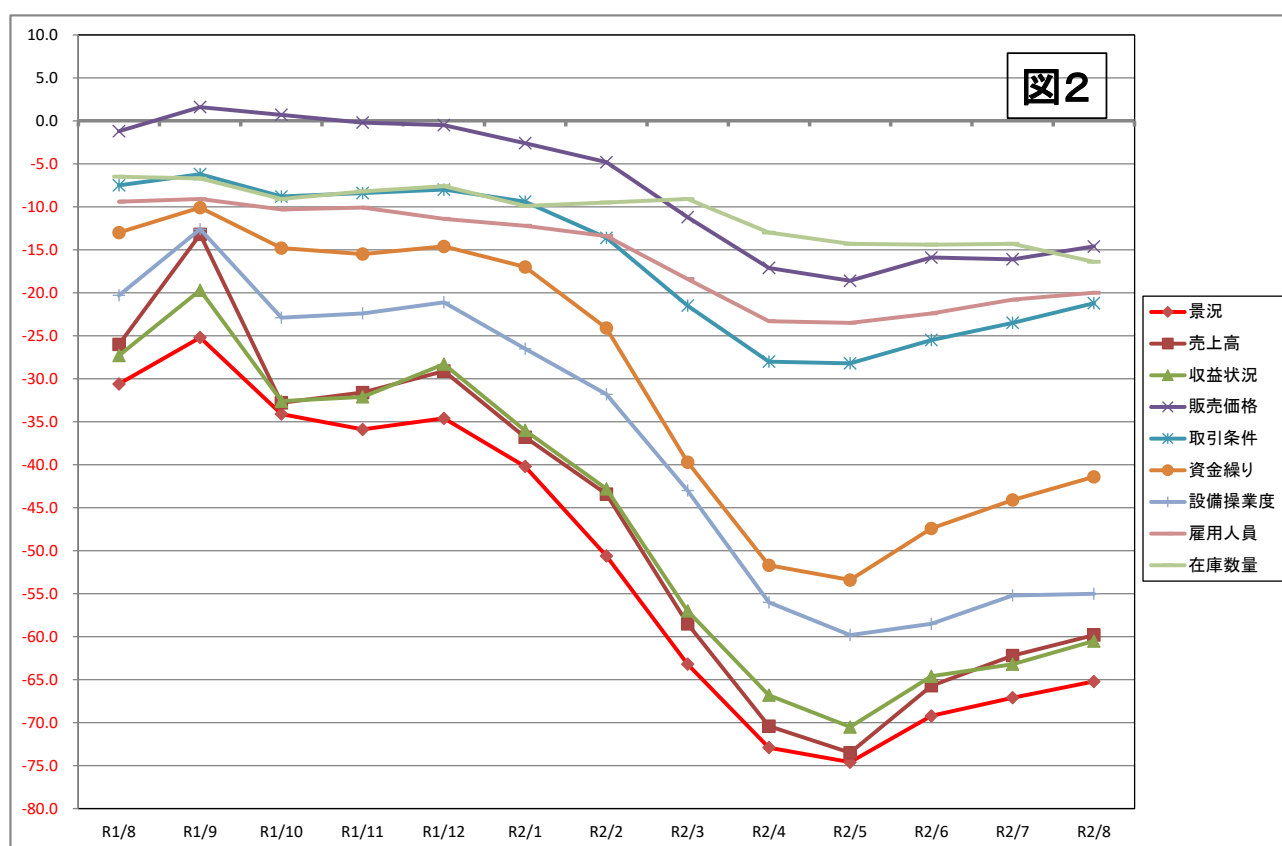


表1	R1						R2									前月比
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月			
景況	-30.6	-25.2	-34.1	-35.9	-34.6	-40.2	-50.6	-63.2	-72.9	-74.6	-69.2	-67.1	-65.2	1.9		
売上高	-26.0	-13.2	-32.8	-31.6	-29.1	-36.8	-43.4	-58.5	-70.4	-73.5	-65.7	-62.2	-59.8	2.4		
収益状況	-27.3	-19.7	-32.6	-32.1	-28.3	-36.0	-42.8	-57.0	-66.8	-70.5	-64.6	-63.2	-60.5	2.7		
販売価格	-1.2	1.6	0.7	-0.2	-28.3	-2.6	-4.8	-11.2	-17.1	-18.6	-15.9	-16.1	-14.6	1.5		
取引条件	-7.5	-6.2	-8.8	-8.4	-8.0	-9.4	-13.6	-21.5	-28.0	-28.2	-25.5	-23.5	-21.2	2.3		
資金繰り	-13.0	-10.1	-14.8	-15.5	-14.6	-17.0	-24.1	-39.7	-51.7	-53.4	-47.4	-44.1	-41.4	2.7		
設備操業度	-20.3	-12.6	-22.9	-22.4	-21.1	-26.5	-31.8	-43.0	-56.0	-59.8	-58.5	-55.2	-55.0	0.2		
雇用人員	-9.4	-9.1	-10.3	-10.1	-11.4	-12.2	-13.4	-18.4	-23.3	-23.5	-22.4	-20.8	-20.0	0.8		
在庫数量	-6.5	-6.7	-9.1	-8.2	-7.6	-9.9	-9.5	-9.1	-13.0	-14.3	-14.4	-14.3	-16.4	-2.1		

【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】

1. 全9指標中、8指標が前月より改善。
2. 経済活動が再開され、上向き傾向とはいえ、大きく改善しているというコメントは少なく、先行きの見通しを不安視するコメントも多い。状況が改善せず、影響の長期化も想定されることから、雇用人員の見直しや削減、給料カットについて言及する報告も増えてきている。
3. 外出自粛等で営業活動や展示会が中断されているため、先行きの受注を確保できていないという報告も増加している。一部の自動車関連業種は受注が戻りつつあるという報告もあるが、多くの業種で大企業やサプライチェーンの生産抑制・流通在庫の高止まりによる影響を大きく受けているという声も多い。

《主な報告内容》

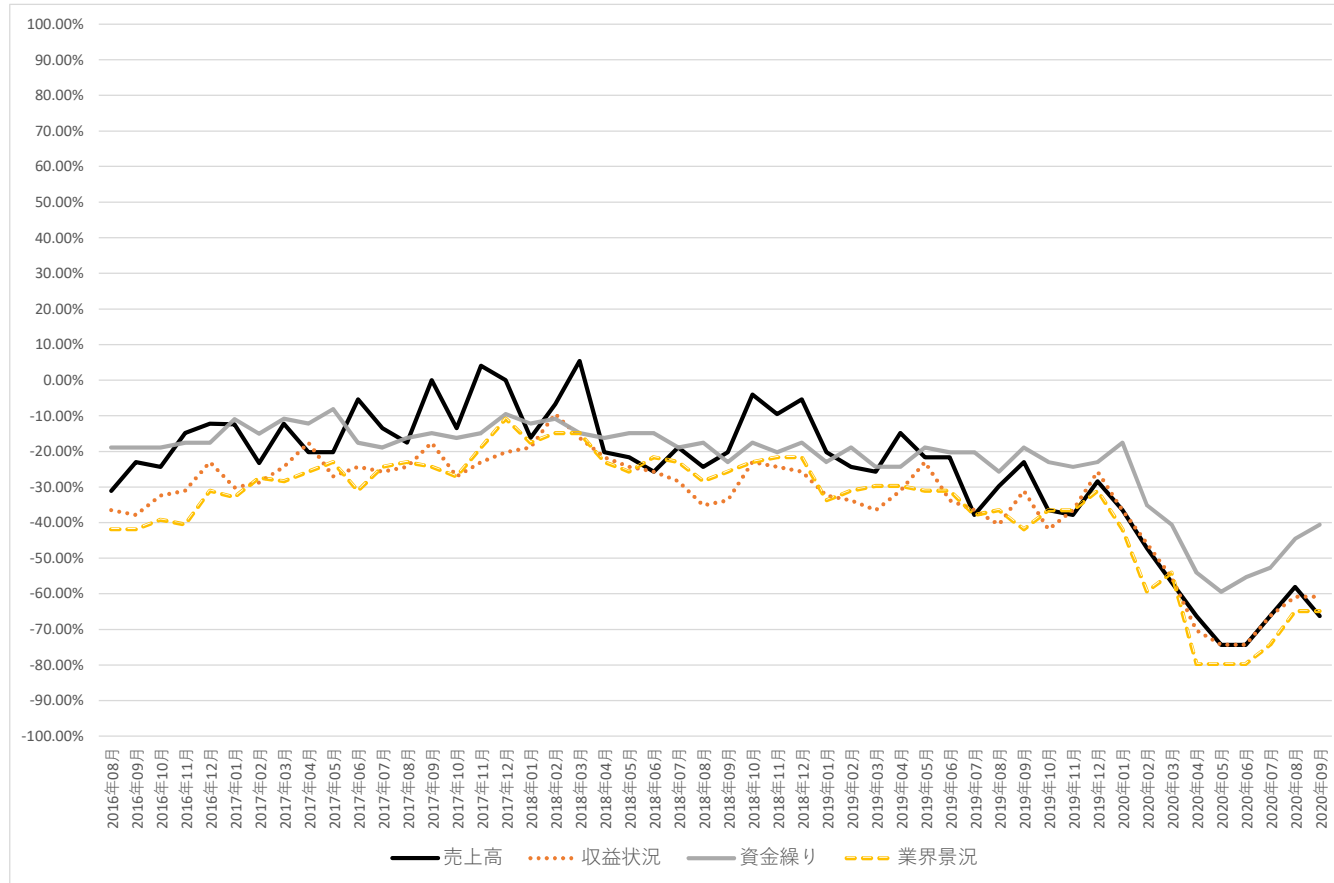
◇新型コロナウイルス環境下における新しい取り組み

- ・価格訴求による売上増を図るのではなく、定番価格販売で収益改善を目指す方向へシフトしてきている。（石川県／調味材料製造業）
- ・商業印刷を中心に4～5月最悪だった受注は6～7月に8割近く戻ったが、8月に入って再びダウンした。今後7割経済が続くと予想される中、7～8割の売上で経営維持を模索する動きが組合員企業に出始めている。（愛知県／印刷）
- ・外国人労働者の新規入国は見通しが立たないものの、再入国については隔離場所等を含めて検討している。継続して消毒液の設置、マスクの配布等の感染対策を行っている。（愛媛県／造船）
- ・昨年、組合員が共同で立ち上げたブランド靴を、東京の百貨店で披露する機会があり好評であった。売上に繋がるまでは期間がかかるため、引き続きSNSなどでPRしている。（奈良県／靴製造業）
- ・引き続き婚礼は開催されず、延岡日向ウェディング協議会として、結婚式が開催されない新郎新婦へのサポートを具体的に行っていく必要を感じる。（宮崎県／卸商業）
- ・自転車の8月販売台数は前年同月で若干減っているように見えるが、スポーツモデルが好調で一般モデルが低迷している。台数的には減少だが売上額がアップしている。（青森県／自転車小売業）
- ・「GoToキャンペーン」に期待したが、県内の新型コロナウイルス感染拡大を受け集客に苦戦した。各店舗に感染防止ガイドラインの遵守を呼び掛け、安全対策の徹底を図っている。（沖縄県／商店街）

◇新型コロナウイルスの長期化見通しによる影響

- ・原木市況は、カラマツは弱保合、エゾ・トドマツは保合。カラマツ原木、エゾ・トドマツ原木ともに先月から在庫を多く抱えている。（北海道／一般製材業）
- ・今後の不安要素として、雇用調整助成金の特別枠の取り扱いが挙げられる。今後、更なる対策の検討が必要だが、受注が戻らなければ人員削減も考えなければならない。（岐阜県／紙加工品）
- ・新型コロナウイルスの影響が業績に響き始めている。この状況が続くとなると、人員削減や新事業の立ち上げなど、根本的に事業を見直す必要性を感じる。（群馬県／印刷業）
- ・コロナ禍で廃業、縮小する事業所が出始めている。終息したとしても仕事量が戻らないじゃないかと不安の声も出だし従業員給料カット、人数を減らすと言う声も出ている。（兵庫県／印刷業）
- ・急速な取引悪化の様相を呈していたが、ここにきてやや持ち直しの傾向が見られる。一方で売上高減少、在庫数量増加の状況にあり、予断を許さない状況である。（熊本県／鉄鋼・金属製造業）
- ・9月以降の計画に回復の兆しが見受けられ、一部の自動車メーカーではほぼ通常生産に戻ってきている。しかしメーカーによっては未だ需要が戻っておらず、過剰在庫で年内の受注再開が見込めない部品もある。（三重県／輸送用機器製造業）
- ・市内の高級レストランが家族葬祭場になり、結婚式場も近く閉店する見込み。中心部の若者向けのレストランが閉店するなど影響が長引けば更に増えていくだろう。（鹿児島県／商店街）



























中小企業団体景況グラフ(全業種の主要項目)



本調査は、神奈川県中央会が委嘱した情報連絡員の役職員74名による調査結果です、調査対象は、情報連絡員は所属する組合の組合員「全業種」の景況（前年度同月比）です。

景況天気図(前年比)

(2020年9月)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
全体	-66.2 %	-10.9 %	-9.5 %	-20.3 %	-60.8 %	-40.5 %	-47.6 %	-16.2 %	-64.9 %
									
製造業	-66.7 %	19.0 %	-4.8 %	-9.5 %	-61.9 %	-42.9 %	-47.6 %	-14.3 %	-61.9 %
									
非製造業	-66.0 %	-36.0 %	-11.3 %	-24.5 %	-60.4 %	-39.6 %	%	-17.0 %	-66.0 %
							-		

(回答率 100.0%)

天気図の見方・・・各景況項目について「増加」（または「好転）」業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を引いた値（KJI）をもとに作成。その基準は次の通りである。ただし、在庫数量はKJI値プラスの時には雨、マイナスの場合には晴れの方に著した。KJIとは、「神奈川県情報連絡印調査指数」の略である。

快晴	晴れ	くもり	雨	雪
				
30以上	10～30未満	10未満～△10	△10未満～△30未満	△30以上

神奈川県中小企業団体中央会

情報連絡一覧票 (神奈川県中央会・令和2年9月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業 食 料 品	パ ン	大規模なパン販売イベントが中止となり、暑さも続き、市販業界が総じて減少(低調)。給食は前年に戻り、前年並みの状況にある。
	酒 造	令和2年8月の清酒課税移出数量の特定名称酒は対前年比95.02%と下回った。内訳は、吟醸酒105.47%、純米吟醸酒108.96%、純米酒88.08%、本醸造酒82.24%となった。特定名称酒以外の普通酒は対前年比59.01%と下回り、合計で対前年比89.63%と前年を下回る結果となった。
	ひ も の	9月は観光客期待のシルバーウィークがあったが、当業界はコロナウイルス感染拡大前の水準に戻らず、苦しい状況が続いている。このような中、月後半頃から若干回復傾向が見られたことから、10月以降の東京発着を加えたGoToトラベルキャンペーン等に期待しているところである。しかし、コロナウイルス感染を機に国民の生活スタイルが変化していることから、従前の販売方針を見直しせざるをえない状況にある。加えて、干物原料であるアジやサンマ等が極端な不漁で良質な原料確保が難しい状況にある等、当組合を取り巻く環境は依然厳しい。
	製 麵	GoToトラベルキャンペーンの効果か9月の4連休の前後は売上が上がった気がするが、そのあとは元に戻ったように悪化してしまった。
木材・木製品	家 具	手持ち受注残高はすでに消化し、ゼネコンの見積もりが減少するなど先行き受注への不安感が強い。持続化給付金を受領し、家賃支援給付金でしのいでいる業者が多い。資金繰り面の影響はこれから深刻化する。長期化に備え、「新型コロナウイルス特別貸付」への関心が高い。コロナ禍が長期化し、大幅な改善は当面なく、1年後も厳しいとみる業者が多い。一方、「家にいる時間」が増えたため、家具の出番と前向きに考え、テレワーク用の家具などや飛沫防止スクリーンなど新しい需要に創意をこらす業者も一部にいる。
印刷	製 本	8月までの状況と特に変わりなく、前年同月比70%前後を推移している。Gotoトラベルの開始による旅行関係の仕事や地域クーポンの仕事が多少見られるようになった。イベントの制限緩和やGotoEatによる経済の動き出しに期待しつつ、新型コロナウイルス感染の増加に注意を払いたい。
	印 刷	当組合は、166社に対して、新型コロナウイルスの影響に対するアンケートを実施した。前回調査で、5～7月の売上が30%以上減少した企業が41.7%だったのに対して、今回の調査で明らかになった実績は58.2%と、予想を上回る減少となった。今後3ヶ月間の減収幅についても、30%超が54.9%、50%超が19.4%と大変厳しい見通しであり、先行きに大きな不安を抱えている。
化学・ゴム	石 油 製 品	ある組合員の景況状況調査によると、「国内自動車関係アウター市場が総じて順調であるとともに、海外市場の受注が回復してきており、9月は輸出が順調に推移、前年実績を上回る売り上げを確保した。一方で、8月と同様に再生品分野での低迷は続いている。生産については、海外からの受注増加により国内生産と合わせてタイトになっており、フル操業が続いている。」
窯業・土石製品	砕 石	コロナ禍の影響が比較的少ない、大型案件などへの出荷は前年並みだが、戸建て等の需要の停滞が目立ってきた。地域差はあるが、全体で横這い。
鉄鋼・金属	工 業 塗 装	9月は若干受注が増加したが、10月以降の状況は厳しい。塗料販売店の話では、10月の出荷量は前年同期比70%程度であるとのこと。コロナ禍の影響がまだ続いているが、7～8月が底で少しずつ回復の兆しが見える。
	工 業 団 地	第2四半期共同受電電気使用量は、前年比▲8.9%（第1四半期は同40%）であるが、好調な食品関係大口需要家1社を除くと前年比▲16.4%は同▲12.5%）であり、操業度は低下している。しかし、7月を底に前年比マイナス幅は若干ながらも改善しており、休業日数を減らす企業も見られる。
	工 業 団 地	コロナウイルスの影響により、売上高前年▲10～20%推移。組合員によっては主要取引先から海外市場向け製品に受注回復の見込みや、自動車部品メーカーからの受注微増との声も聞かれるようになった。
	工 業 団 地	依然としてコロナ禍による低迷により、業況は大変厳しく、先行き不透明で、下期の景気予測が困難。一部昨年実績を上回る先もあり、稼働状況はやや改善傾向。【参考】当組合ETC利用実績推移 令和2年2月～8月は前年比▲17.8%、令和2年8月は前年比▲7.2%と一時に比べかなり改善。

	金 属 製 品	明るい兆しが見えてきたと思っていたが、思うように企業の受注が増加に転じない。給付金・助成金では耐え忍ぶには非常に厳しい企業も見られる。まだまだ先が見えない状況が続いている。
	輸送機器 指 定 業 者 (船 舶)	造船メーカー各社の受注残は平均で1~2年分で2年分を割り込むと不況と言われており、既にその危険水域に入り込んでいる。そのため、各社とも、建造ピッチをスローダウンする方向に向かって舵を切っている。本来、今年は各社受注が増える見込みであったが、コロナ禍と中韓との激しい受注競争にさらされ、不況が長期に及ぶ可能性が出てきた。
	工 業 中 心 の 複 合 業 種	少しずつ動き始めてはいるものの、大きな変化の無い横ばい状態は、しばらく続きそうである。コロナ禍で、各会員の状況等を聞く交流の場として、リモートでの研修会の開催やアンケートを取る等しているが、コロナ禍以前のように参加者は戻らず、組合の事業活動も四苦八苦している。
	その他の製造業 工 業 中 心 の 複 合 業 種	世界的に設備投資が進まずプラント・工作機械等の受注が大幅に減少し生産調整が長引いている。大規模展示会等が中止・延期される他、営業活動自粛による機会損失も発生。コロナ禍の生活環境の変化により、受注変化への対応が困難な状況。所得低下による個人消費の落ち込みによる影響が懸念される。営業自粛、イベント自粛の解除により経済活動の活発化に期待。
	工 業 中 心 の 複 合 業 種	多少上向き傾向に感じるが、数字としてまだ表れていない。フェアーウェイ規制の状況次第では、受注に不安を感じている。
非 製 造 業	菓 子	売上は2割から3割減少したままで、回復していないようである。特に企業や大学などの売店に関しては、在宅での勤務や授業の広がりによって、売上が戻るのには難しいと感じている。これから資金繰りや雇用維持が一層厳しくなることが予想される。
	卸 団 地	売上については、前年同月比で減少。緊急事態宣言が解除されたものの、依然として新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、前年比減収。一方、巣ごもり需要による特需で増収の企業もあり、販売ターゲットによる業績格差が顕著に表れている。大幅減収の企業においては、緊急特別融資で資金繰りを保っている状況。
	料 理 材 料 卸	まだまだ売上は60~70%の組合員がほとんどである。10月よりGoToEatキャンペーンが開始されるが、店舗側も客数を制限しての営業であり、満席であっても売上は70%程度ではないかと推測される。産業給食においては、テレワークが常態化し、食堂の使用人数もそれに伴い、減少しており、外食産業は依然厳しい状況が続くと考えられる。
	歯 科 用 品	新型コロナウイルス感染症拡大の影響による売上減も下げ止まりつつあり、今後改善に向かいそうである。補助金による効果はあと2ヶ月ぐらひは続きそうである。
	リ サ イ ク ル	古紙の輸出価格については中国及びアジア向けの引き合いが強く、前月に引き続き、堅調が続いているものの、国内においては需給縮小により古紙消費も低下が続いていることから、市況価格は低調のまま推移している。
	リ サ イ ク ル	古紙市況は、国内需要が低調で、問屋の在庫調整が継続している、アジア向けの輸出は中国も含め、需要が活発になってきており、引き合いが強くなってきている。鉄スクラップ市況は、国内の問屋入荷は減少が続いており、価格上昇に対応するため、様子見ムードとなっている。故繊維市況は、主要取引先であるマレーシアやフィリピンなどで流通停滞が継続しており、国内での供給余剰が問題となっており、引き続き家庭での衣類処分を控えてもらうように要請している。
	小売業	菓 子
	青 果	9月に入っても、残暑が厳しかったが、台風の影響も限定的なもので、大きな被害なく、一部野菜産地の移行で、高値の物もあったが、青果全般にわたり入荷量、相場ともに比較的順調な展開であった。下旬になり、天候も秋らしくなってきたが、新型コロナウイルスの影響はいまだにあり、青果専門店の経営は小型飲食店関係の納品減少、大型店の販売拡大のあおりを受け、ますます厳しさを増している。総体的には 前年比 販売量 92%、販売高 前年比 93%であった。
	化 粧 品	対面販売が基本であるが、新型コロナウイルス対策のため、マスク、フェイスシールド、パーテーション等、衛生管理に十分に気を付けている。メーカーで行われているセミナーも密になるのを避けるためWEBで行っており、メーカーの営業マンも在宅でテレワークを行っている。
	生 花	花の作付けが新型コロナウイルスの影響で減少し、市場で高値が続き、さらに悪化している。
	電 化 製 品	前月に引き続き、夏物商品は好調に推移した。

	鮮魚	入荷量は依然として減少傾向。サンマは品質は良くないが高値。飲食店の営業は全く回復しない。
	燃料	9月に入り、上旬から中旬にかけて、原油コストは新型コロナウイルスからの需要回復が遅れているとの懸念が再浮上し、約3円/ℓ弱の大幅安となった。これに伴い、国内石油元売会社も約3円/ℓ弱の仕切価格の下降線を辿っている状況である。末端販売数量はやや持ち直し、前年対比で大方、90%ほどで推移しているが、依然、経営環境は厳しい状況が続いており、10月以降の新型コロナウイルスの拡大が心配の種である。
	共同店舗	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、退去する店や家賃の未収が発生している。特に来店者は高齢者が中心で、高齢者は外出を控えているので、その影響は大きい。
	タイヤ販売	新型コロナウイルスの影響で需要が減少していたが、少しずつだが、景気は対前年に戻りつつある。GoToキャンペーンの影響で、乗用車のタイヤ需要は良くなっているかもしれない。今年のウィンタースポーツや旅行などへのアクティビティの減少がまだ予想され、不安である。物流などの生産財は海外との貿易から物流ははまだ減少しているが、国内物流は前年と同じくらいの需要に近づいていると思われる。
商店街	横須賀市	8月末より横須賀市発行の「地元のお店応援券」は幅広い業種で利用ができて好評。また、タバコ・第3のビール等の値上げによる駆け込み需要により、一部業種が伸びており、全体としても消費の刺激が見受けられた模様。10月に予定のハロウィンイベントは中止した。近隣大型店のアニバーサリー・地元のお店応援券・GoToトラベル地域共通クーポンなどを活用して集客アップに繋げたい。
	横浜市	飲食店を中心に厳しい状況が続いている。年末の企業の忘年会が中止になるところが多いのではないかと危惧している。持続化給付金や融資の効果が切れる年末は心配である。
	藤沢市	昨年の消費増税前の駆け込み需要により、昨年対比は2桁落ち込んでいるが、想定範囲内であり、全体的に客足は戻ってきている。コロナ禍であるため、営業時間の1時間短縮は今も継続している。
	川崎市	今月は台風が3つ発生して先月の酷暑が少しの間続いたが、全体的には雨の多い不安定な陽気で秋物商戦に影響を与えた。また、シルバーウィークの期間中はコロナ禍の中、旅行等に出かける人が多かったようである。商店街には通常と変わらずには入は出ていたが、食品以外は売上には結びつかない状況なようである。秋冬シーズンでインフルエンザと新型コロナウイルスと付き合いしかない状態であるが、商店街として何もしないわけにもいかず、9月1日から毎年恒例の「スタンプラリー」をスマートフォンで実施し、1,250人を超える方が登録され、10月5日まで実施した。
	相模原市	今年度に入り、ほとんどのイベントが中止となり、商店街としても活気に欠けていた。8月から半年ぶりに朝市を開催し、どの程度お客様が来てもらえるか心配したが、開催を待ち望んでいたお客様でにぎわった。特に9月は過去2番目の来場者があり、安心した。何か積極的にイベントをすればお客様は来てくれるのではないかと。
サービス業	温泉旅館・ホテル	コロナウイルスの影響か、自家用車での来客が目立つ。GoToトラベルの効果もあり、前年並に戻りつつあるが、間際予約が多く、団体客も動いていない状況である。
	医療業	医療機関外来、薬局処方箋は前年比90%前後を推移しており、4～6月より改善するも厳しい状況は続いている。健診は戻りつつある。また、前月に続き、障がい者施設のデイサービスが中止となり、給食数が減少した。今後はインフルエンザワクチンの接種希望の増加が予想されるが、昨年並みの確保はできたが、増加には至っていない。
	ファイナンシャルプランナー	様々な面で収益状況が悪化しているが、個別家計相談の増加や新企画事業立ち上げなど、状況が好転している面もあり、これからの業務に積極的に取り組んでいる。

	情報サービス業	社間で分散状況あり、コロナウイルス対応のため、在宅勤務・自宅待機は継続している。在宅勤務可能な者は全てテレワークに移行したが、プロジェクトによって現場復帰者も出てきた。自宅待機者の売上は無償のまま（全額控除）で、予防休暇として給与控除し、同額の休業手当支給は継続している。助成金の給付が安定してきており、申請後1ヶ月半くらいで入金されるようになった。制度融資を活用して資金調達を実施したことで、当面の資金繰りは問題なかったが、返済を開始するまでに業況を回復させないと返済が滞ってしまう。携帯料金値下げの要請が政府から再提示された影響で、携帯大手会社が経営不振となり、そのおりで当組合・当社を含む携帯電話関連の中小企業の経営悪化が懸念される。10月以降の案件がなかなか確定しておらず、コロナウイルス騒動により営業活動は殆ど停止しているが、先月に比べると引き合いは回復基調にある。新規案件の確保は困難だが、既存プロジェクトは在宅勤務にて継続基調。収益は対前年比で悪化しているが、大きく黒字。
	建築設計	横浜市の公共建築の今後の大規模な計画について整理してみたい。2017年度より始まる約300校の建替え計画は17年度に着手校が3校、19年度まで3校ずつと続いたが、20年度は6校となった。事業費は各40億円前後である。市営住宅の建替え5施設、再生が2施設、区総合庁舎9棟の建替え、事業費480億を見込む新劇場整備、東部方面斎場整備、市立大学病院2施設整備、大規模改修では、横浜美術館120億円、開港記念会館、横浜赤レンガ倉庫等が予定されている。コロナ禍の中、着実に計画が進むよう期待したい。
	柔道整復師	新型コロナウイルス感染リスクを避けるため、来院予約制に変更した店舗が増えてきている。重症化リスクも低下してきたせいも、徐々に来院者数も戻ってきたところもあるが、未だに患者が戻らず、窮地に追い込まれつつある地域もあり、地域格差が拡大してきている。これは地区住民の平均年齢層の違いによるものと推察される。平均年齢の高い地区では、感染リスクが高いことから来院控えが目立ち、平均年齢層の低い地区では、半年間続いている3密への閉塞感からか、リスク管理しつつも外出する人が増えてきているのではないかと考える。
建設業	管工	中小企業の景況はすこぶる悪く、民間工事の発注も低調であった。下期発注の公共工事にあやかりたい強い思いがあり、これらの経済活動の好転に期待したい。
	電気工事	各種学校、ハローワークに従業員の募集を募っても応募者がいない。失業率が増えているというが、新入社員は入社しても、すぐに辞めてしまうと聞くので、建設業界には人が集まらない。
	空調設備工事	コロナ禍で現場の動きにバラツキがあり、コロナウイルス感染の影響で現場の稼働が悪くなっているところもある。それ以外の現場では、通常の工事をしているが、今後の動きが不安である。
	畳工	秋口になり、多少受注が増えるも、結果として売上は前年比で減少している。一般事業者の好転はいつになるやら不安である。コロナウイルス感染者は少し増加しているのが気がかり。
運輸業	道路貨物	全体的に前月より若干輸送量が増加している。
	道路貨物	自動車業界の回復傾向に伴い、荷量が4～7月に比べ、増えてきたが全体として前年同月に比べると1～2割ほど荷量が少ない状況が続いており、買い手有利な状況となっている。仕立運賃も下落傾向が続いており、中・長距離帰り便については、仕事の少ない事業者が言い値で引き受けることもあり、4月に発表された標準運賃の50%以下となることも多い。鋼鉄メーカーの減産と消費税増税、コロナの影響が重なり、鋼材輸送の荷量と鋼材輸送車両の需要が減り、輸送料金が低下している。取扱事業については、4月は前年実績に対して60%台、5月は50%、6月は40%まで低下していたが、7月は50%台、8月は60%台まで回復した。
その他の非製造業	歯科技工	新型コロナウイルスの影響により、経営が悪化していたが、受注は回復傾向になっている。感染拡大が長期化し、収束が見通せないこと、今後への不安から「経営が苦しい」・「赤字」といったことから経済的・精神的不安が続いており、収益状況が好転し、前期の減少部分を取り戻さないとの声が多い。具体的な支援策として「前年比50%減少」の受給要件が厳しく、「持続化給付金」が使えないとの声が多い。
	不動産	不動産業界全体では、4～5月の最悪の状態からだいぶ回復してきている。特に売買は成約件数、価格とも前年と同水準近くまで戻ってきているように思える。賃貸も9月後半から動きが出てきているが、不動産会社店舗の訪問は相変わらず減少が続いている。インターネットでの物件探しが主流であり、入居申込もインターネットを利用するスマート申込が多くなってきているので、高齢者が多い街の不動産は時代についていくのに苦労している。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
卸売業	卸 団 地	令和元年9月の早朝に到来した台風15号で、当団地一帯が海水の浸水被災。台風15号被災復旧が途上の中で、新型コロナウイルスに伴う自粛要請により、消費意識は委縮し、減収傾向。新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発出から1ヶ月半で宣言が解除されたが、行政からの事業者支援のスピード感が鈍いと言わざるを得ない状況。かつてない、不況となる事態であること、給付金、借入金の資金交付スピードが遅いことを考慮し、国税、地方税、社会保険の支払猶予のみでなく、国税、地方税、社会保険の減額、免除、還付請求も可能となるよう、支援体制構築をお願いしたい。
小売業	新 聞 販 売	自民党県連、公明党県本部、小泉衆議院議員、三浦参議院議員を通して陳述をした。日本の戸別配達制度を維持するためにご協力をお願いしたい。
	共 同 店 舗	空き店舗対策と新型コロナウイルス対策。
商店街	横 浜 市	医療機関も新型コロナウイルスのクラスターが発生して大変な状況であるため、引き続き、支援策の検討をお願いしたい。
サービス業	情 報 サ ー ビ ス 業	コロナ対策を継続してほしい。
建設業	電 気 工 事	外国人就労者に頼らずに人員を確保するための施策を業界をあげて検討してもらいたい。
運送業	道 路 貨 物	家賃支援給付金について、申請してから約1ヶ月後に申請書類不備の連絡があり、修正申請するも、また1ヶ月後の連絡という具合に手続きが進まず、困っているという声を聞いている。また、税理士に申請を依頼しても相当時間がかかっている模様。改善のご検討をお願いしたい。